

至仏山 樹木に咲く花

もう一度至仏山に登って、高山植物の花を見、写真を撮りたいと思い、出かけました。至仏山では昼近くから雨が降り出して、じっくり写真を撮っていただけなかったのは残念でした。ここには樹木の花を集めました。



ゴゼンタチバナ (ミズキ科)

薄暗い針葉高木林を行くとき、群生していてよく目にする常緑の多年草。4枚の白いものは総苞片。花は小さく中心に10~30個咲く。秋、径5mmくらいの赤い石果が数個実る。



ハイマツ (マツ科)

森林限界から上で一面の針葉低木林を形成する常緑低木。幹は地を這い、高さは1mくらい。葉は5枚が一束になって、長さ3~7cm。高山低木帯の優占種で、このような地帯を「ハイマツ帯」という。

イワシモツケ (バラ科)

針葉低木林や礫地に生える夏緑小低木。至仏山。森林限界を超え、大岩の累々とした道の脇で雨に洗われ緑と白が一段と輝いて見える。こんな岩がごろごろしている場所で、どんなふうに根を張っているのだろうか。



ウラジロヨウラク (ツツジ科)

山地に生える落葉低木。花が下向きに咲く様子が、仏像・仏壇を飾る瓔珞(瓔=玉などの首飾り、珞=まとう)に似ていることから付いた名前。花は長さ12~14mmで4~10個が固まって咲く。

アズマシャクナゲ (ツツジ科)

至仏山頂から小至仏山へ向かう道は、新潟県と群馬県の県境を行く。新潟県側から冷たい雨交じりの風が吹き上げてくる中、この花が今を盛りと咲いていた。

ハクサンシャクナゲ (ツツジ科)

アズマシャクナゲと区別をつけにくい、自分では全体が白く見えるものをハクサンシャクナゲと思っている。間違いでなければいいが。



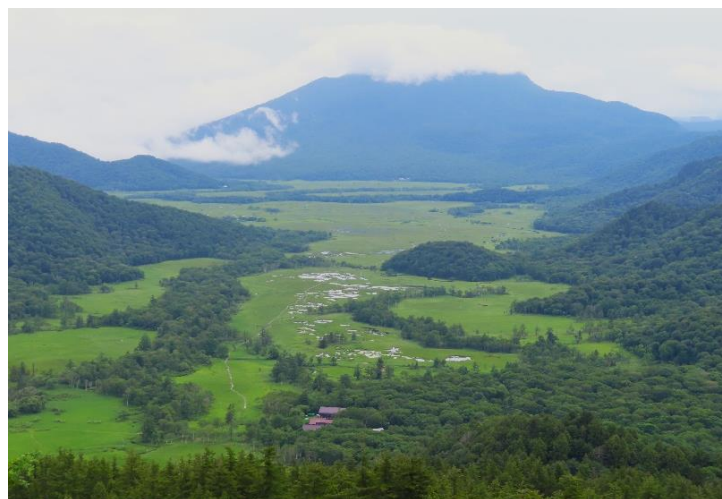
チングルマ (バラ科)

高山の湿性地に群生する落葉矮性低木。湿原でも至仏山への登山路でもよく見る花。今回は花期が過ぎて、右のように種子になっていた。上の花の写真は2009年鳥海山で写したもの。名前は、種子が子供(稚児)の玩具の風車に似ていることから、ということだ。



オオタカネバラ (バラ科)

蛇紋岩地に生える落葉低木。直径4~5cmの5弁の花が咲く。予定時間を大幅に遅れ、最終バスに間に合うかどうか心配しながら歩く道で、ふと気を紛らわせてくれた花。



森林限界を過ぎて少し登ると見えてくる景色。

尾瀬ヶ原の湿地・池塘・拋水林・木道全てが地図を見るように見晴らすことができる。

のんびり眺めていたいところだったが……。